

12月末の人口
 世帯数 610人
 男 801人
 女 788人
 計 1,589人
 (馬路 1,084人)
 (魚梁瀬 505人)

広報 うまじ

昭和61年1月15日発行
 第一一六号
 編集 馬路村教育委員会
 印刷 安芸印刷



↑ 天の神の神楽復活 (馬路熊野神社)

あなたです！



火事を出すのも防ぐのも



すべてを灰にしてしまう火災。
 この原因の7～8割は、たばこ
 やマッチなどの投げ捨て、たき火
 の不始末など、ちょっとした不注
 意からなのです。
 特に冬場は、空気が非常に乾燥

していて、強い風が吹くことも多
 く、そのうえ暖房器具を使う時期
 でもあります。

火事を出すのも防ぐのもあなた
 の心がけ一つです。火の元には、
 くれぐれもご注意を——。

今月のスポット

11 月

- 7 日 地区別婦人問題研修会(就改センター)
- 8 日 部落長会(就改センター)
- 9～10日 第13回馬路村文化祭(馬路体育館ほか)
- 10日 県民体育大会ソフトボールの部開催(春野町)
- 10日 県民スポーツ安芸地区大会(田野町)
- 11日 臨時村議会(就改センター)
- 12日 第1回村内中学校弁論大会(就改センター)
- 12日 高校生の父母の会(就改センター)
- 13日 馬路地区慰霊祭(就改センター)
- 14日 魚梁瀬地区慰霊祭(魚梁瀬公民館)
- 15日 馬路保育所改築工事起工式
- 16日 馬路保育所祖父母運動会
- 17日 スポーツ指導者研修会(就改センター)
- 19日 馬路ごみ焼却場改造工事起工式
- 28日 馬路中学校工芸教室(馬路工芸センター)
- 30日 第6回村内芸能発表会(就改センター)

12 月

- 1 日 安芸郡市町村対抗軟式野球大会(安芸市)
- 3 日 乳児検診(就改センター)
- 3 日 村おこし研修会(就改センター)
- 3 日 民生委員・郡福祉合同研修会(魚梁瀬公民館)
- 6 日 馬路地区はし拳大会(就改センター)
- 7 日 馬路熊野神社秋祭
- 8 日 「天の神の神楽」発表・奉納(馬路熊野神社)
- 8 日 馬路小中学校校内相撲大会(馬路相撲場)
- 8 日 馬路熊野神社奉納相撲大会(馬路相撲場)
- 8 日 第11回安芸タートルマラソン大会(安芸市)
- 11日 総務常任委員会(就改センター)
- 11日 人権相談(就改センター)
- 12日 森林・農協・村三者会議(コミセン)
- 13日 産業建設常任委員会(就改センター)
- 18日 栄養教室(魚梁瀬公民館)
- 18～25日 12月定例村議会(就改センター)
- 24日 新入児検診(馬路小学校)
- 26日 農業委員会(就改センター)
- 27日 民生委員会愛のもちつき(就改センター)
- 28日 官庁御用納め

1 月

- 1 日 体育始め(馬路・魚梁瀬)
- 1 日 馬路村成人式(就改センター)
- 4 日 官庁御用始め
- 6 日 消防出初式

フォト・フォーカス



↑ 11月30日 村内芸能発表会



↑ 12月6日 馬路地区はし拳大会



↑ 12月7日 馬路熊野神社秋祭



↑ 12月18日 馬路保育所もちつき



↑ 1月1日 成人式

村内あちらこちら

半世紀ぶりの執念

天の神の舞

復活

十二月八日、熊野神社拝殿において、馬路古式行事保存会による「天の神の神楽」の発表と奉納が行われました。

保存会では、五十九年の夏から、村の有志による古式行事の

復活・保存活動を進めてきました。そして、活動開始一年半にして、ようやくこの日の発表にこぎつけたものです。

当日は、あいにくの雨もようでも、場所を境内から拝殿に変更



↑ 50年ぶりに復活した「天の神の神楽」・写真の舞は「八男乙女の舞」

して行われました。

開始時刻の午前十時には、村民、中学生、村外からのカメラマンなど約百五十人ほどが拝殿内外につめかけ、寒い雨中にもかかわらず熱気に包まれていました。

太鼓が小気味よく、神楽独特の響きで打ち鳴らされるなか、「たすきの舞」「盆の舞」「弓の舞」「八男乙女の舞」「剣の舞」が発表されました。

舞い手、太鼓打ちは次の方々と、若さと老練さがうまくミックスしての発表でした。

▼舞い手・太鼓打ち(敬称略)
○乾栄二 ○大野満哉 ○五藤寿史 ○清岡博之 ○小松博
○栗林栗穂栄 ○芝巖 ○清岡福長 ○小島忠義 ○高橋里美
○池田米子 ○岡田数子 ○橋本延子 ○清岡令子

村文化財調査委員会では、約五十年ぶりに復活したこの神楽を、村の無形民俗文化財に指定されるようすすめていく予定です。

かべの

ガイドコーナー

祭神は、三神如来・七加来などの神々で、神も仏も一体的に考えられています。

昔、藩政時代のころ、祭日は旧暦の十一月十五日と十六日で、氏は十四日の晩から熊野神社へお籠りをしました。そして、最後の十六日に「舞い神楽」を奉納したのです。

氏子や一般の人々は、このお祭りを「天の神もうし」と呼んできました。

「天の神」は非常に厳しい神様で、お供えする初穂は耕作する水田が定められています。また、戸主が田植えから収穫までのすべてを行いました。氏は四つ足の肉を食べることを禁じられ、お産も

母屋ですることはできませんでした。

「天の神の神楽」独特なものとしては、「八男乙女の舞」と「弓の舞」があげられます。

「八男乙女の舞」は、男女合わせて八人で行い、右手に扇子、左手に神を持って、歌詞に合わせ大変ゆっくり舞います。単調ではありますが、このゆったりとした舞いざまに、四百年の歴史があるようです。

「弓の舞」は、弓ならぬ鉢を六尺の桑の木に固定して、くるくる回しながら舞います。この際、桑の木二本を弓状に作り、銭を十二文ずつさして、ヨモギのぶち(むち)でたたきます。

この「天の神もうし」は十二年目ごとに行われました。人々は、その長い間にお米やお金を蓄え、神楽の練習をして、次の準備を整えたのです。



昭和61年頭の所感

個性あふれる

馬路村に

馬路村長

小松千歳



馬路村のみなさん、新年おめでとございます。

みなさまにはますますお元気で新しい年をお迎えになられたことと存じます。

昭和六十年を振り返ってみますと、固定資産税の実測課税、魚梁瀬営林診療所の廃止、馬路診療所の医師の退職など、いろいろと迷惑やご不便をおかけいたしました。また、それぞれにご理解とご協力を得ておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

診療所につきましては、現在、高知県や安芸病院の積極的なご

協力によって運営いたしております。また、昭和六十一年四月からは、馬路診療所へ常駐の医師をおくとともに、魚梁瀬診療所へも対応できるよう努力をしております。

工事関係では、魚梁瀬丸山公共用地の造成事業も、昭和六十二年度には完成できる見通しです。

馬路村と安芸市、および北川村とを結ぶ幹線林道も順調に開設されております。

また、小規模事業による基盤整備もかなりの効果をあげているものと思っております。

一方、特にこの村の基幹産業である林業は、木材需要の減退、木材価格の低迷、林業経営費の高騰などによって、生産活動が低下しております。

木材業界においても、著しい経営不振に陥るなど、きわめて厳しい状況となっております。

したがって、林業対策が今年も大きな課題であると認識しております。

終戦後四十年を経て、社会経済の発展はめざましいものがあり、今や成熟の時代を迎えたと



寅

いわれています。しかし、単に物質的な豊かさばかりでなく、自然環境や心の豊かさを求める施策も必要であると考えます。

新年のすがすがしさの中で、新鮮な希望と決意をもって新しい年に臨み、限られた財源をいかしながら、個性豊かな馬路村の実現を図っていききたいと思っております。

本年もより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

昭和六十一年が村民のみなさま方にとりまして、幸せな年でありますようお祈りいたしまして、新年のごあいさついたします。

晴れの受賞

おめでとございます



交通安全で

政府表彰

栗林栗穂栄さん



栗林栗穂栄さん

昨年の秋、本県で四人目の交通安全功労者として、本村の栗林栗穂栄さん(65)が政府から表彰を受けました。

栗林さんは、仕事のかたわら約三十年間にわたって、街頭指導をはじめ交通安全教室の講師や安全施設の補修などを積極的に行っていました。

また、これまでも県の交通安全功労者表彰など九回も表彰を受けています。

通商産業

大臣表彰

西野寿雄さん



西野 寿雄 さん

十一月二十日、東京のNHKホールで第二十五回商工会全国大会が開催され、西野寿雄さん(72)が通商産業大臣表彰を受けました。

西野さんは、商工会の運営および経営改善普及事業の推進に貢献されたものです。

県勢表彰

中村 重信さん

尾原 宗寿さん

十一月三日、県正庁ホールにおいて恒例の高知県県勢功労表彰が行われ、馬路村からは中村重信さん(71)と尾原宗寿さん(61)が受賞されました。

教育相談所だより ②7

子どもの お金の使い方



お年玉をもらったら、高価なものでも自由に買いたがります。でも、一人でかってに買物に行かすのは、ちょっと待ってください。

買物の前にまず話を！

中学生になると、お金の価値がわかるようになります。

お年玉は本人がもらったもので、親がとかく言えません。しかし、使い方や買うものについて、親が相談にのってやるのが大切です。買物に行く前に、話し合うようにしましょう。そして、お互いに納得したうえで、「いいものを買っておいで」と信用して買物に行かしてやりたいものです。

お金を渡した以上は、子どもに任せる気持ちが必要です。

「なんでも買ってやる」はダメ

幼児期に、欲しがるものをなんでも買い与えるのはやめましょう。

お金を渡して、お金に「子もり代わり」をさせて、お金の大切さを教えないでいると、浪費が原因となります。

おこづかいを与える時期は、計算がきちんとでき、お金の価値がわかるようになる小学一年生ぐらいからがよいのではないでしょうか。それまでは親が買って与えるべきでしょう。

お金を生かして使うために

昔から、「金は生かして使え」「死金は持つな」といわれてきました。

お金は生き物と同じです。大切に使うと役に立ちますが、粗末にしたり、無駄使いをしたりすると、逃げていきます。

お金を生かして使うために、次のことを注意しましょう。

- ① こづかい帳をつける。
- ② 郵便局などにあずける。
- ③ 使うときには親に相談する。
- ④ すぐに必要でないお金は、親にあずける。
- ⑤ お金はさいふに入れ、裸銭は持たない。
- ⑥ 決められた額以上のこづかいを与えない。

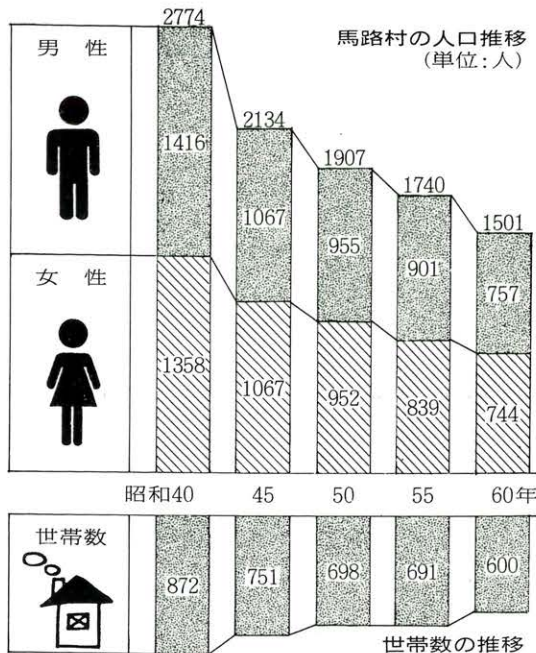
このように、幼児期からお金についてのしつけをきちんとし、そのつど正しい金銭観念を話し合い、使うときには子どもを信用して任してやるのが大切です。

資料 「個性に応じた家庭教育」

国勢調査

馬路村の人口1501人

県下で4番目に少ない村に



昨年の十月一日を調査日として行われた「国勢調査」は、村民のみなさまのご協力によって無事に調査が終わりました。あらためてお礼を申しあげますとともに、集計結果をお知らせします。

調査の結果、馬路村の総人口は一五〇一人(男七五七人・女七四四人)、世帯数は六〇〇世帯となりました。

これを前回の昭和五十五年と比較しますと、人口で一三・七%、世帯数では一三・二%の減少となっています。

馬路村は、大川村・本川村・土佐村に次いで高知県で四番目に人口の少ない村ということになります。

(注)この数値は、住民基本台帳の数値とは一致しません。



尾原 宗寿 さん



中村 重信 さん

中村さんは、長年にわたり農業関係団体の要職を歴任し、農業の振興発展に寄与した功績を認められたものです。



乾 正志 さん

昨年十一月、高知市において、乾正志さん(77)が、選挙関係功労者として、県表彰を受けました。

乾さんは、選挙管理委員会の委員として、通算二十六年あまりにわたる活躍が認められたものです。

によるものです。

県選挙関係
功労者表彰
乾 正志 さん

中学生からの メッセージ

ぼくの考え

わたしの声

十一月十二日、文化祭行事の一つとして、第一回村内中学校弁論大会が、馬路村就業改善センターで開催されました。この大会では、各校から選ばれた十六人（馬路十一人、魚梁瀬五人）の発表が行われ、緊張しながらもそれぞれ堂々と自分の意見を述べました。

この弁論大会のなかから、二つを紹介します。

彼女らをあたたく見守り、そして育てていくのは、私たちおとなの務めではないでしょうか。

韓国は

おとなりの国

馬路中三年

西野千晶



「心配しなくてもいいよ」

青年会議所の人は言った。

「君たちは韓国についてあまり知らないだろうし、朝鮮語も話せないと思う。でも、それでいいんだ。一番肝心なことは、そうだね。韓国へ行ったらすべてのことを自分の目で見て、自分の気持ちで感じるんだよ。」

韓国旅行の説明会の時だった。

部屋には、約七十名の中学生とその両親がいた。

今年が「国際青年の年」だというので、高知青年会議所は韓国へ中学生を派遣する計画を立てていた。幸い私もその一員に選ばれた。

その当時、私は、朝鮮は二つに分裂し、二国間ではきびしい緊張状態にあることぐらいしか

知らなかった。私は、また、韓国はいろんな面で日本より数年後れているだろうと考えていた。

大阪を発って、私たちはソウル国際空港に着いた。

バスの窓から韓国の首都をながめてみた。第一印象は、小さな建物ばかりで、大阪や東京のように天にそびえるようなビルディングがないな、ということだった。ソウルは、私のようにへき地で育った娘の目から見ても、大きな都市ではなかった。

私たちは、多くの場所を訪れた。三十八度線・オリンピックプール・学校・寺院、それに個人の家庭にも行った。

私は、この旅行でたくさんのことを学んだ。

韓国で会った人たちのほとんどは、祖国を愛している。ほかの人には親切だし、暖かい心を持っていて、老人を尊敬し、研究熱心である。このような民族的特色は、日本社会から急速に失なわれているのではないかと心配だ。

ソウルで、ヤン・ハク・コウという少年と会い、すぐ仲良しになった。彼は英語が大変上手で、私は半分ぐらいしかわからなかった。私たちはジェスチャーを使った。

「日本のことを、今でもよく思っていない人たちがいます。日本が治めていたころのことが忘れられないからです。でも、ぼくは、日本も日本人も好きですよ。いつか、日本へ行きたいと思っています。きみもオリンピックをみに、また韓国へいらっしやい。」

私は、韓国の青年たちは二十歳になれば、軍隊に行かなければならないことも知った。ヤンハクも間もなく銃をとらなければならぬということだ。

私は、三十八度線近くの地下基地に行った日のことが忘れられない。

肩に銃をかついだたくさんの若い兵士たち。空気の状態を知るため飼っているカゴの中のカナリア。そして、兵士を毒ガスと敵から守るためのたった一つの小さな鉄の扉。背筋が凍る思いがした。

私たちは日本人は、平和のうちに生活しており、それが当たり前だと思っている。

私は今、「ほかの人たちに偏見をもつべきでない」と考えはじめています。お互いに理解し、いっしょにがんばり、お互いに学び合わなければならない。しかし、そうするためには共通の言語が必要だし、お互いの立場が理解できる広い心も必要だ。そしてもう一つ。自分たちの目ですべてを見るということ、つまり、自主性を持つべきだと思う。

韓国の友だちとの親ばく会



魚梁瀬に

生まれて

魚梁瀬中一年

新居朝香



私は、「魚梁瀬に生まれてよかった」と思います。

それは、環境がよく、遊び場がたくさんあるからです。町の子どもたちと比べて、私たちはいいところに住んでいると思います。

私が四年生か五年生のときに大阪へ行って思ったことですが、都会の水はカルキ臭くておいしくありませんでした。でも、魚梁瀬の水は、自然にお

いがしておいしいです。

空気も、町はあまりよくありません。車の排気ガスの汚れで、歩道にある木などが枯れて、緑が少なくなっています。そのため、酸素なども少ないのではないのでしょうか。

それに比べて、魚梁瀬は空気がきれいです。私の父が魚梁瀬に帰って来て、魚梁瀬の朝の空気が気に入って、「朝の香」という意味で、私に朝香という名前を付けてくれました。



魚梁瀬には緑がたくさんあり、二酸化炭素を吸い、酸素をたくさん出しているの、町のように酸素が不足していません。一度、魚梁瀬に来ると、きれいな空気、きれいな水、そしてこの自然をうらやましいと思います。私は、こんなきれいなとこ

ろに生まれてよかったと思います。

また、魚梁瀬には、山の幸がいろいろあります。マツタケ・ゼンマイ・ワラビ・イタドリなどです。町ではお金を出さないと、マツタケなどは食べられません。この辺ならば、取りに行くのがしんどいけれど、ただでマツタケご飯やお汁を食べたり飲んだりできます。

うちの父と母もよく取りに行きます。私も一度、いっしょに行ったことがあります。でも、それっきり取りに行っていない。それは、急なところを歩かないといけないし、足場の悪いところがあつてこわいからです。でも、私も父や母のように歩けるようになって、またマツタケを取りに行きたいと思っています。

マツタケや山の幸を取りに行くという楽しみは、魚梁瀬からできるのです。それに、車もそう走っていないので、事故もないし、うるさい音もしません。だから、静かでよく眠れます。

しかし、魚梁瀬もいいことばかりではありません。一つは、交通の便が悪いことです。魚梁瀬は山の中にあります。だから、しもへ行くまでにかなり時間がかかります。そのためにたいくつでたまりません。もう一つは、病院がないということです。けがや重い病気を

したときに、一時間二十分もかけて、安芸まで行かなければなりません。魚梁瀬と馬路には診療所しかないからです。魚梁瀬にも、設備が全部ととのった大きい病院を造ってほしいと思います。そうすれば、遠くまで行かなくてすむし、病気がひどくならないうちに診てもらえるからです。

また、魚梁瀬にはいろいろな店がなく、農協とたばこ屋しかありません。

みなさんはどんな店があつたらいいと思いますか。私は、こんな店があつたらいいと思います。本屋・衣料品店・文房具屋などです。それは、魚梁瀬に欲しいものがないときに、高知や安芸へ行かなければならないからです。そういうときに店があると、とても便利だからです。

でも、魚梁瀬に店ができれば、高知などへ行く楽しみが、なくなってしまうようにも思います。やっぱり、魚梁瀬に店がないということも、少しだけいいような気がします。

魚梁瀬の中学校は、生徒が全校で十五人しかいません。一年生は、二学期になる前、信弥君というクラスメートが高知へ転校して行ったので、今、私と伊吹さんの二人です。二人ですごく大変なことは、授業中、発表する順番がすぐに

回ってくることです。それに、魚梁瀬の中学校には、「一分間スピーチ」という「自分で題を決めて、月曜日の集会のときにみんなの前で発表する」というのがあります。それで、三年生、二年生、一年生の順番だけれど、一年生は二人しかいないから順番がすぐ回ってくるのでしんどいです。

でも、人数が少ないために、先生が個人的に教えてくれるので、勉強がよく分かります。

また、全校でキャンプに行くことができます。川原でご飯を炊き、キャンプファイアーなどをして、楽しい二日間を過ごすことができます。私は一年生だから、まだ一回しか行ったことはないんだけど、今から来年のこのキャンプを楽しみにしています。

私は、この文章で町と魚梁瀬をいろいろと比べてきました。たしかに、町にはいいことがたくさんあります。でも、私はこの魚梁瀬が大好きです。

大人になったら、いろんな人に自慢して、みんなが、「ワ、いいところやね」といつてくれるような、いつまでもきれいな魚梁瀬であってほしいと思います。

また、今の自然を守っていきたいと思います。

くらしと人権

歴史をとおして考える

女性史研究家

もろさわ ようこ

女の運命と部落の方の運命の共通性は、近代に入ってもみられます。

私の友人が戦前に結婚しました。東京の大学を出た隣村の村長の息子のところへ、みながら祝福されたのです。

その方は中央官庁へ勤めていたのですが、かけ事が大変好きで、月給日前になるとすでお金がありませんでした。そして、彼女が持っていた指輪や着物が、いつの間にか質屋へ入っているのです。

ある時、たまりかねた彼女が、「あなた、ひどいじゃありませんか。何もかも私のものを質屋へ持っていくって、お金をよこさなかったり」と言いました。

すると、法科出の彼は、六法全書の民法八〇一条のところにひろげ、「妻の財産は夫がこれを管理する」と書いてあるところを見せました。

彼女が、「すると私のものはあなたのもので、あなたのものはあなたのものなのね」と言うと、「うん、そのとおりだ。ま、おれのものはおれのもので、お

まえのものもおれのものだ」と言ったのです。

これまさに、亭主天皇制です。男の人に「男はつらいけれど女から比べたらましなんだ」と思わせたのです。

でもこれはまやかしののです。戦後の人にはおわかりにならないでしょうけれど、私たちが教わった教育勅語の中に「一旦緩急あれば義勇公に奉じ」というのがありました。

戦争が起って、天皇の名によって命令されると、男の人たちは、「私の命はあなたの命です」といつて身ぐるみ差し出さなければならなかったのです。そして軍隊へ入れば、上官の命令は天皇の命令ということで、絶対服従でした。突撃しろと言われれば、いやだなんて言えないのです。

また、戦地へ連れて行かれるときも、どこへ行かされるのか行き先さえも知らされませんでした。船の底に詰め込まれ、愛する妻や子や親にも会うことができなかったのです。

しかし、「二度と帰れないか

もしれない。なんとか一目なりとも会って行きたい」と、いろいろな工夫をして、出発のときを知らせました。戦争末期、夜中に列車が止まった駅で「〇〇いませんか」と呼び合っていた光景があります。そのとき会うことができれば、まことに幸せだったのです。

こうして男たちは、親子妻子の別れもろくにできずに戦争へ連れて行かれ、そしてどこかの見ず知らずの土地で屍（しな）になったのです。

そして、そういう男たちのつらさがあったからこそ、男女差別をしておく必要があったのです。

戦後、男女同権の基本的人権がようやく確立され、「今こそ大きな大きな太陽が昇るのだ」と、平塚らいてうさんが言いました。しかし、昇りかけた太陽は、公害現象の中でみえがたくなっています。

戦後の社会では、法律の上では確かに基本的人権が保障されました。しかし、生活の実態は、人間のために生産が行われないで、お金もうけのために生産が行われたのです。

そういう形の中で、物は確かに豊かになりましたが、人々の心は貧しくなりました。

こんな中で、私はもう一度、「人間の生きる意味は何なのか

ということを考えてみるべきだ」と思います。

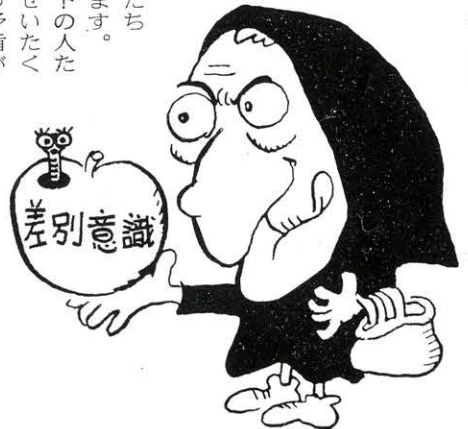
物が大切な、心が大切か。つまり人間はパンなくしては生きられません。ですから生活保障としてパンが保障されることは、基本的人権の確立です。でも、地球上

の一方では、飢えた人たちが七〇パーセントもいます。そして、三〇パーセントの人たちは、その上に立ってぜいたくをしています。そういう矛盾が今の世界にはあるのです。

ア・メ・ニ・モ・マ・ケ・ズの詩を書いた宮沢賢治が、「世界に不幸がなくならなければ、自分に幸せがやってこない」と言っています。

私たちの人権を確立するためには、人権を踏みじられている人々の人権をまず確立することです。今までのようにイデオロギーの道具であってはいけません。私たちは、愛において他者の痛みをわが痛みとし、そして、それをともにそれぞれの生きていく場所で閉ざされた状況を開いていくのです。そしてそのときに、人権もまた確立されていくのではないのでしょうか。

私たちは、「差別はいけないことだ」と知っています。しかし、私たち日本人は、差別を生きがいとした長い歴史を通じて



ぬけてきました。差別を当たり前とする感覚が、身体に刻み込まれているのです。

「私は差別をしていません」という人がいますが、これは偽善です。私たちは差別意識を打ち込まれているのです。だからこそ、差別をなくしていくには、まず自分の差別意識を洗い出して、それをみきわめることが第一歩といえるでしょう。

言葉でいうのはやさしいけれど、日常の次元で実践するのは大変難しいことは十分わかっています。しかし、解放というのを日常の次元へ根づかせないかぎり、研究会の儀式や行事だけで終わってしまうのではないのでしょうか。

高知県教育委員会発行

「人権への道」から



↑力のこもった相撲に観客からも大きな声がとびます



馬路村相撲大会

● 小松一昭
● 湯浅建設

十二月八日、馬路相撲場で開

催された相撲大会には、六チーム、十八人が参加、くりひろげられる熱戦に、詰めかけた大勢の観客からは盛んな拍手と声援がおくられました。

主な結果は次のとおりです。

▼団体戦の部▲

優勝——湯浅建設(山崎国広・山崎 出・門田弘男)

二位——魚営林署(内原秀夫・秋山雅弘・藤原寿昭)

▼個人戦の部▲

優勝——小松一昭(安田町)

二位——乾 準治(相名)

三位——清岡尚靖(相名)

▼その他の各賞▲

殊勲賞——山崎国広(魚梁瀬)

敢闘賞——八木 孝(影)

技能賞——木下英年(日浦)

特別賞——乾 準治(相名)

2年連続優勝

馬路体育会

安芸郡市軟式野球

十二月一日、第十五回安芸郡市町村対抗軟式野球大会が安芸市で行われ、馬路体育会がみごと優勝をかざりました。

馬路は、一回戦で強敵の吉良川良陽クラブを1対0の完封でおさえ、二回戦のNTT室戸も5対1と下して決勝へ。

勢いにのる馬路は、決勝戦でも安田体育会をよせつけず、4対1で勝利を手にしました。

馬路体育会は、十四回大会につづいて、二年連続二回目の優勝ということになります。

大野登央くん 全国高校 駅伝に出場

十二月二十二日、京都市で行われた第三十六回全国高校駅伝競走大会に、大野登央君(18)が高知農業高校の選手として出場しました。

大野君は、チームメートの故障のため、はじめ予定されていた七区(5^キ)から急ぎよ距離の長い四区(8・0875^キ)に変更されての出場でした。このため本来の実力がだしき



大野登央くん

れなかったものの、区間29位、タイム25分15秒と、まずまずの結果でした。
また高知農業としては、故障者などもあり、32位という成績に終わりました。
なお、先に行われた県予選では、大野君は第六区(5^キ)を力走し、16分52秒という好記録で区間賞を得ています。

これからのスポーツ

◎ 第4回村民駅伝競走大会

1月25日 PM2:30スタート

- 1区(1.3k) 村民運動場→営林事務所
- 2区(2.0k) 営林事務所→相名
- 3区(1.3k) 相名→熊野神社
- 4区(1.7k) 熊野神社→相名会館
- 5区(2.6k) 相名会館→村民運動場



◎ 第3回馬路村内

ピッタリタイム駅伝

3月29日(魚梁瀬地区)

馬路村の歴史と伝説



<士>

馬路城・魚梁瀬城 ③

馬路公民館長 山中 巖

平隆長 馬路へ隠れ住む

宮廷と摂関家内部の複雑なものが直接のきっかけとなって保元の乱(保元元年・一一五六年)が起きました。

源義朝・源頼政・平清盛を大將とする後白河天皇がわの軍勢千七百騎が、崇徳上皇がたの本拠地「白河殿」に攻撃をかけました。崇徳上皇がたは、左大臣藤原頼長・源為義・源為朝・平忠正ら一千余騎の軍勢でした。

このとき、鎮西八郎為朝は、自慢の強弓を引き絞って活躍し、敵軍を悩ましたのは有名な物語となっています。

後白河天皇がたは、先に白河殿に火を放ったため、上皇がわは大混乱となり負けてしまいました。世にこれを「保元の乱」とよんでいます。

奥州岩城の城主、岩城民部大輔由隆の末孫、平隆長は崇徳上

皇がたに味方しました。しかし、敗北の憂き目にあい、保元二年、阿波の国岩城というところへ逃れ、それから馬路村の東川へ隠れ住みました。

付き添った家来、または後に家来になった者の氏名は次のようです。

○南兵部 ○久保定左衛門
○中屋弥左衛門 ○大家太夫右衛門
○岡田左右之丞 ○橋本四郎左衛門
○山畠九郎右衛門
○清岡与惣左衛門 ○大野惣四郎
○神田羅兵衛

ときに、保元二年九月十五日でした。今を去る八百二十九年前のことです。

ところで、平隆長は東川のどこへ住みついたのでしょう。推測が許されるなら、今の観音堂付近ではなかったのでしょうか。

馬路城主

馬路蔵人頭

平隆長から十五代目にあたる

馬路蔵人頭平長正は、城山に馬路城を築いて馬路城主となりました。

そのころは戦国時代と呼ばれ、村々には城が築かれました。今日の勝者は明日の敗者、実力のある者はその力にまかせて、弱い者をねじふせていった時代でした。

その当時、中芸地区では、安田三河守鑑信(安田)、姫倉右衛門尉(田野)、安岡出雲守重盛(奈半利)、北川玄蕃頭(北川)など、それぞれの地区で勢力を誇っていました。

安芸氏

ついに滅びる

先号でも記しましたように、安芸国虎の呼びかけに応じた安芸郡下の諸将や馬路蔵人たちは、長宗我部元親の軍と戦いました。しかし、矢折れ力つきて、それぞれの地元へ帰りました。

永禄十二年(一一五九)八



↑馬路蔵人頭平長正馬上の図 (馬路郷土館蔵)

月十一日、国虎は、黒鳥の浄貞寺で自害し、一千年の長い間栄えた安芸氏はついに滅びました。

元親再び軍を東へ

元親は安芸氏を滅ぼすと、ひとまず軍勢をまとめて岡豊へ帰りました。そして、準備を整え、天正二年(一一五五年)の秋、大軍を率いて安芸郡の東部へ向かって来ました。

そして、伊尾木の有井玄蕃、安田の安田三河守、田野の姫倉奈半利の安岡出雲守、北川の北川玄蕃頭を討ち破りました。さらに、室戸・佐喜浜・野根・甲浦の城主を討ち取って、安芸郡のすべてを従えたのです。

さて、馬路城にいた馬路蔵人頭平長正以下郷土軍は、元親軍に対してどのような防戦をしたのでしょうか。

以下 次号へつづく

所得税 確定申告は お早めに

2月16日～3月15日

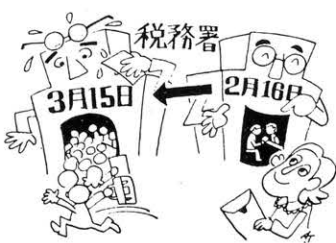
昭和六十年分の所得税の確定申告の受付が、二月十六日から始まります。

次のような人は、確定申告をしなければなりません。

○事業をしている人、地代や家賃収入のある人、土地や建物を売った人などで、昭和六十年中の所得の合計額が、基礎控除、扶養控除などの所得控除の合計額を超える人。

○サラリーマンで、給与の収入が千五百万円を超える人や二か所以上から給与を受けている人、給与以外の所得金額が年間二十万円を超える人。

期限間近になりますと大変混雑しますので、できるだけ早く行うようにお願いします。





婦人大会に

参加して

馬路婦人会

H・S

十二月十日、高知市内で零下〇・八度という、南国土佐も大変寒い朝でした。

高知県民文化ホールで県連婦人大会創立三十周年記念大会が開催され、馬路婦人会からは、国広会長ほか四名が参加しました。

「参加・学習・連帯によって会の活性化を図ろう」をテーマに、県下七ブロックから約千五百人の会員が参集し、会場は熱気に包まれました。

大会は午前十時に開会され、まず、長年の婦人活動の功労者の表彰が行われました。そして、来賓の祝辞のあと、高知県母親の主張大会で優秀賞を獲得された井上郁子さん（高知市）と吉中陽子さん（東洋町）の貴重な体験発表が行われました。

十二時三十分からはアトラクションが行われ、高知県警察音楽隊の演奏やブロック別芸能発表になごやかなひとときを過ごしました。

十三時五十分からは、「これからの日本と教育問題」と題して、NHK報道記者の小浜維人さんの講演が開かれました。そのお話の中で、小浜さんは次のように語られました。

「日本人の勤勉さや階層的な社会が繁栄をもたらし、貿易摩擦を生じるようになってきた。

また、学歴を重んじるあまり、現在、無気力で創造力のない青年があふれている。これからは、①新しい技術を考え出す人間

②新しい技術を使いこなす人間③それを世界に売りあるく人間が要求される。それには、自由な教育、個性的な人間が望まれる。アクセサリとしての学歴ではなく、実力がものをいう時代になってきている。

また、今後、高齢社会化が進み、扶養人口対被扶養人口の割合は、十五年後には三対七になる。そのため、共働きの家庭が増え、当然女性の職場進出が増加する。そして、それによって老人看護機能は低下し、地域社会の活力も低くなると思われる。そうすると、六十五歳を過ぎても働ける職場や生きがい教育が必要となる。

医療は、予防と健康増進の方向へと向かねばならない。非行の問題に関しては、夫婦が円満な家庭をつくることだ。なによりも家庭の和が大切であり、そしてわからなくなったら足もとをみつめることだ。足もとをみつめるということは、原点にかえることであり、原点とは、すなわち家庭であり夫婦なのである。」

十五時十分からは大会宣言が行われ、閉会となりました。

平々凡々に、大した変化もなく静かな山村で日夜暮らしている身にとって、こうして各分野で活躍しておられる方々のお話を拝聴できることは、実に有意義です。生きる刺激となり、勉強になります。

「寒い中、朝早くから出てきたけれども、本当によかったねえ」と、みんなで言い合えるような、こんな機会がまた来年も持てますことを願って、ペンを置かせてもらいます。

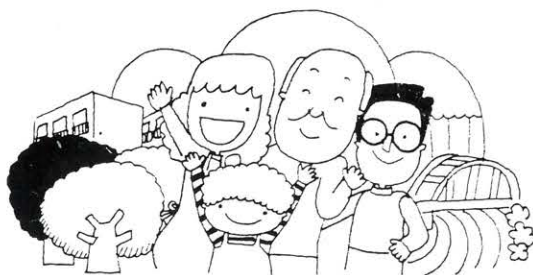
守られていますか?! 最低賃金

あなたの職場には、不当に低い賃金はありませんか。高知労働基準局では、高知県内に適用する最低賃金を右の表のとおり改正しました。

- 最低賃金は、事業場で働く常用・臨時・アルバイトやパートなどすべての労働者、および一人でも労働者を使用している使用者に適用されます。
- 最低賃金の日額は月給制・日給制・出来高払制労働者に、時間額は時間給制労働者に適用されます。
- 最低賃金額には、①精皆勤手当・通勤手当・家族手当、②時間外・休日労働などの割増賃金、③臨時に支払われる賃金は算入されません。
- 最低賃金は、最低賃金法に基づく賃金の最低基準ですので、最低賃金額が実際の賃金額よりも低いことを理由として、使用者が賃金を一方的に切り下げることはできません。

件名	効力発生日	最低賃金額	
		日額	時間額
高知県最低賃金	60.10.1	3,214 ^円	402 ^円
食料品製造業	60.12.30	3,640	455
木材・木製品・家具・装備品製造業	60.12.30	3,747	469
機械すきと紙・板紙・製紙パルプ製造業	60.12.26	3,700	463
窯業・土石製品製造業	60.12.30	3,881	486
機械・金属製品等製造業及び自動車整備業	60.12.30	3,865	484
電気機械器具製造業（上段適用産業を除く）	60.12.30	3,640	455
卸売業・小売業	60.12.30	3,638	455
飲食店	60.12.30	3,367	421
道路貨物運送業	60.12.30	3,673	460

つくるページ のびるば



青年の 強い 若い力と団結で

魚梁瀬青年団長
山崎 出

私たちの魚梁瀬青年団は、昨年の六月にできたばかりの、これからの若い青年団です。
魚梁瀬には、地元出身の若者は数人しかいません。そこで、営林署に勤める青年や、学校の先生たち呼びかけて、青年団ができました。
今はまだ、昔の青年団のような活発な行動はできませんが、小さな団体でも団結が強ければ、昔の団にまけないような活動ができると思っています。
しかし、私たちの青年団は若い者が多く、また、過去において青年団活動をした者が少ないこともあって、まだまだ経験不足です。「青年団ができたので、

あれやれ、これやれ」といわれ、ても問題がありますが、少しずつやっていきたいと思っています。
また、馬路の方にもいろいろな青年部がありますので、ぜひ交流会などもやってみたいと考えていますので、よろしくお願ひします。
魚梁瀬は、転勤など人の出入りが多いので、これから団がどのように変わっていくのかわかりませんが、楽しい団になるようにがんばりたいと思います。
これからも、アドバイスや注意など、どしどしお願いします。
ちなみに、毎月第二水曜日には魚梁瀬公民館で定期会を開いていますので、ぜひ遊びに来て



↑ 魚梁瀬青年団の役員のみなさん。上段左から 橋口くん、山崎くん、奥西さん、下段は 岡野くん、細川さん

ください。

団の役員、および団員は次の人たちです。

団長―山崎 出
副団長―岡野幸平

書記―奥西弘江
橋口福男

会計―細川千代
団員―門田弘男・鶴内和典

熊野義助・皆津宏晃
松尾昭彦・広石 功

瀬戸口英昭・森 昭人
宮本 享・谷 義雄

黒岩彰子・浜渦かおり
池地美弥・中山佐百合

別役豊子

動く福祉相談所 2月12日

悩んでいるあなたのために



生活上の悩み、子どものこと、障害のこと、仕事のこと、健康のこと、そのほかいろいろなことでお困りのみなさん！

そんな方々のために「動く福祉相談所」が開設されます。

相談は無料で、秘密は固く守ら

れますので、安心して何でもお気軽にご相談ください。

◎と き 昭和60年 2月12日(水)
午前10:30～12:30

◎ところ 馬路村就改センター

◎主 催 安芸郡福祉事務所

詳しくは役場住民課へどうぞ。

みんなで 村民

←芸能発表会での初舞台



大正琴に みせられて

馬路 Y・M

私たちが大正琴を始めるようになったきっかけは、昨年の一月末のことでした。

私たち大正十四年生まれの同級生数人は、馬路小学校のときの恩師である中西春江先生を久礼に訪ねました。

九十三歳の先生が、ぶあつい眼鏡をかけて弾いてくれたのは、小学校一年生当時に教わった童謡でした。

そのときの先生の姿や、大正琴の音色にひかれて、だれともなく、「私たちも弾きたいねえ」「そうねえ」と一決したのです。

そして、三宅哲男さんに講師をお願いしました。しかし三宅さんも、「まだ私もさわったことがないからねえ」ということで、すぐに練習開始というわけにはいきませんでした。

二月も終わりに近いころ、三宅さんの準備も整い、やっと習えるようになりしました。初めて手にした大正琴をながめながら、「待ち

に待った教室が始まるんだなあ」と胸がいっぱいになりました。

しかし、いざ始めてみると、思ったほどやさしくはありません。ピックは握れず、左手は思うように動かず、譜は読めず、だれいともなく、「エセ始めたねえ」というような声も聞かれたものです。

一、二か月はアツという間に過ぎて五月になり、なんとか曲を弾けるようになりました。

「村の芸能発表会で発表したい」という声のなかで、あちこちで習っていた十二人が一堂に会したのは十月の末でした。

その後、約一か月の練習は苦しみの連続でした。しかし、芸能発表会が終わったときの喜びは、また格別でした。

大正琴という小さな芸能に、これからのちも心を込めてがんばっていきたいと考える昨今です。

馬路・魚梁瀬 俳句会

百合子

ふすぶりし恵比寿の顔や返り花
いささかの栗の実りを供えけり

清子

こんぺきの海原行けば冬カモメ
朝もやの中に色付く柚子の黄
早朝の冷気を受けて入港す

喜美栄

柚子探りて首と肩との骨がなる
朴落葉小路をふさぐたて横に
短日の心づもりははずれけり

うた子

行く秋のお大師講の夜が更ける
ゆずしほる良き香家中漂えり
好みし菊終りに近くなりけり

千鶴子

晩秋や名札つらねし花の種

ご出生おめでとございます

父	母	赤ちゃん	続柄	月日	部落
徳久 浩泰	富士子	鮎美	長女	12月2日	魚梁瀬
内原 博信	小百合	誠	長男	12月13日	影

ごめい福をお祈りします

氏名	性別	行年	亡月日	世帯主	続柄	部落
清岡 鹿恵	女	87	10月26日	長幸	母	相名
乾 鶴一	男	77	12月16日	正敏	父	相名
中屋 節子	女	52	12月19日	容臣	妻	影

夢つづくころ良き音冬の雨
父となり冬さるる夜の声の張り

眸

煙草買うのみに行くらし月の道
忘れ居し事書き足して冬に入る
綿虫や唇かたく結び行く

善心

月冴えて隣は雨戸引く様子
空を見て人と話して大根切る
指さした紅葉の山のハゼ紅葉

雅子

柚子とりや血圧計のいらだちで
今日もまた続く歯こぼれ冬の夜
墓原に二つの花輪木の実降る

幸男

遠出して古戦場にも今日の月
霧深き峠下れば湯宿あり
灯台の明りを断ちて稲光

麗山子

膝くずす衣の深さや里神楽
木枯や五里の彼方に医師いる町
座薬さし入れて寂しき烏瓜

おめでとう 二十歳の出発



一月一日、新たに成人となる若者十六人を迎えての昭和六十二年馬路村成人式が、就業改善センターで催されました。

馬路村では、村内の小中学校の卒業生と村内在住の成人を対象としており、今年は昭和四十年四月二日から四十一年四月一日までの出生者二十六人を対象としたものです。

出席者の中には、中学校以来約七年ぶりに馬路にこられた藤島智恵子さんの顔もみられ、久しぶりに会った友だちと声を交わしていました。

式典は午後一時三十分に始まり、中村教育委員長の式辞につづいて、小松村長、山崎議長、山川営林署長が、暖かい励ましの言葉を贈られました。

また、出席者一人一人に、魚梁瀬杉で作られた額縁が記念品として手渡されました。

これにこたえて、阪南大学に在学中の乾剛君が代表として、成人となった決意を表しました。

二時三十分からは、馬路村商工会の清岡博基さんを講師にお招きしての記念講演が行われ、村おこしについてのお話に耳をかたむけました。

記念撮影のあと開かれた座談会では、それぞれ今の生活などを紹介するとともに、これからの抱負などについて語り合いました。



雪の富士

国見 喜美栄

↓ (日浦・78歳)



第十三回馬路村文化祭への出品作品のなかから、ちぎり絵を二点紹介します。

ミニギャラリー



↑ 夕 日

伊 吹 千鶴子

(日浦・67歳)